第４学年道徳学習指導案

日　時　平成 18 年 11 月 22 日（水）５校時
児　童　４年１組　男子７名　女子 17 名　計 24 名
指導者　笹　平　　恭　一

１　主題名　思いやる心をつたえよう【２－（２）思いやり・親切】

２　資料名　２７　心の信号機（出典　みんなのどうとく　４年学研）

３　主題設定の理由

（１）児童について
　本学級は、明朗快活な児童が多く、係活動や当番活動においても男女協力して取り組むことができる。家族や、親しい友達に対しては優しく声をかけたり、手助けをしたりする子どもは多い。けれども、中には、自己中心的な考え方をするために、相手への思いやりが欠けるような言動がみられることもある。これまで継続してきた学級遊びやグループ内での学び合いを通して相手を理解し、良さを認め合おうとする姿が多く見られる。

（２）価値について
　学習指導要領第３章、道徳の第３学年及び第４学年の内容の２「主として他人とのかかわりに関すること。」の（２）に、「相手のことを思いやり、親切にする。」とある。内容項目の視点は、自己を他人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図ることに関するものである。内容項目の（２）では、徐々に相手の気持ちを理解できるようになる中学年において温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育て、相手のことを考えて親切にすることの出来る子どもを育てようとするものである。
　「思いやり」とは、誰に対しても相手の気持ちを考え、相手の立場などを推察し、相手の心情に共感し、理解することである。この「思いやり」に丁寧に配慮した行為が相手に対する「親切」となる。自らに対して深く考えることが出来るようになるこの時期に、相手のことを考え、更に相手とのかかわりを通して、自らをさらに深く見つめ、相手を思いやり、親切にする態度を育てることは、大切である。

（３）資料について
　本資料は、障害を持っている人にはなかなか声をかけられない主人公「ぼく」の気持ちは、多くの児童にとって共感しやすいと思われる。「ぼく」の気持ちに共感し、その時の心情を考えることで、「ぼく」に託して自己の本音を語ることができ、日常の自分の行為をもう一度見つめ直すきっかけ、自己自身を見つめ直しながら、他者の苦しみや立場を思いやることの出来る資料である。

（４）人権教育の観点から
①人権理解にかかわって
　児童は他の人に親切にしたいことがあるかという問いに「お母さんが具合が悪い時にご飯の支度を手伝ってあげた」、「おばあちゃんの庭の草取りを手伝ってあげた」、「バスに乗っている時、おばあさんに席を譲ってあげた」などの回答があった。
　第４学年の人権教育の目標は「障害者理解と共生」である。児童は、総合的な学習の時間で、障害者理解のために、白杖体験や点字の学習をしている。その際、児童は、目の不自由な人から苦労や努力について体験談を聞いている。児童の感想から困っている人を見かけたら、「大変だろうなあ」「声をかけないと」と思いながらも、実践するというところまで至っていない。その理由として、知らない人に対して恥ずかしさやお節介かもしれないという気持ちが先行して、親切に出来ないでいること。また、自分の気持ちを上手く表現し、伝えることができない面も見られることが考えられる。このことは、親切にしようと思いながらも、なかなか実行できない「ぼく」の姿に酷似し、子ども達も体験していることからも、児童は「ぼく」の心の葛藤に共感し、成就感についても共感できる内容である。従って、児童にとって身近な資料を活用することは子ども達にやる気を出させることができるであろう。今後は、児童が進んで困っている人に対して、声をかけて、優しく手を差し延べることが出来るように育てていきたい。

②育てたい力について

「思考力・判断力」にかかわって
　資料の「ぼく」の行動や言動、心の迷いについて場面ごとに確認し、「ぼく」が目の不自由な男の人に声をかけて手を差し延べようかどうしようかと葛藤する場面で、「ぼく」の心情に共感させるようにしたい。その際に、「ぼく」と同じ体験をしたときのこ

とを想起させる。自分が同じ立場だったらどうするかを考え、自ら行動しようとする態度を育てるようにする。さらに、真の思いやり・親切について考えるようにさせたい。

「受容力」にかかわって

互いに認め合う場面では、プラスの価値のみならず、マイナスの価値も出し合うようにさせる。そして、「ぼく」の心の迷いに共感させながら、自分と異なった友達の考えも、受け入れるようにさせたい。そして、相手の立場に立った真の思いやり・親切についても深く考えるようにさせたい。

「表現力・行動力」にかかわって

「ぼく」の心の迷いに共感し、自分の言葉で表現させる。そして、今までの自分の行動を振り返らせ、「自分が『ぼく』と同じ立場になったらどうするか。」、「自分に何が出来るのか。」を考えることによって、相手の立場での「真の思いやり・親切」を実践しようとする心情を育てる。

（５）指導にあたって

導入段階では、白杖体験における歩行の大変さ、介助の大変さを想起させる。

展開段階では、男の人に声をかけようかどうか迷っているときの「ぼく」の心情を、充分時間をかけて考えさせたい。グループ学びでは、友達の考えに触れ、新たな発見をし、今までの自分を振り返って、「真の思いやり・親切」について考えるようにさせたい。

終末段階では、困っている人を見かけたら、これから自分はどうしていきたいかを考えさせて、実践に結びつくようにさせたい。

５　本時の指導

（１）目　標

相手のことを思いやり親切にする心をもって接しようとする心情を育てる。

（２）人権教育の観点から

本時は、総合的な学習の時間で学習した障害者理解を通じて、児童は主人公「ぼく」の困って　いることを見かけて、声をかけようかどうか迷っているときの心の迷いや自分の共通体験を通じ　て、真の思いやり・親切について考える。更に児童は、グループ学びを通じ、友達の考えを知り、　交流することを通して「思いやり・親切」に対する価値観を改めて、本当の「思いやり・親切」　について考え、実践していく心情を育てたい。

また、コミュニケーション能力の育成としては、授業の展開の段階で、グループ学びでは、教　科リーダーが中心に進める。児童は自分の考えを発表し、互いに交流し、自分との違いを認識し、　相手の考えの良さを認め合う場にしたい。友達の意見を通して自分を振り返り、友達の良さを新　たに発見し、更にお互いを高め合おうとするように育てたい。

（３）展　開

段階	学習活動と主な発問 （主発問●）	予想される反応	評価（□）留意・支援（☆） 人権教育の観点（◎）
導入 ３分	１キャップハンディ体験をしたことについて話し合う。	・見えなくて歩けなかった。 ・怖かった。 ・介助するのが大変だった。 ・目の不自由は人はすごいなあ。	☆児童おのおのが白杖体験を通して、目の不自由な人の気持ちを考える方向付けをする。 □目の不自由な人の気持ちになって考えようとすることができたか。 ＜思考力・判断力＞
展開 37分	２　資料「心の信号機」を読み、話し合う。 (1) 横断歩道を渡り終えようとした「ぼく」のたまらない気持ちとはどんな気持ちですか。 (2) ●いざ歩き出すとゆっくりとなってしまった「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょうか。	・見て見ぬふりができない。 ・渡るために手を貸してあげなくちゃ。 ・交通事故にあったら大変。 ・なんて声をかければいいのだろう。 ・せっかく声をかけても断ら	☆男の人のことが気になってそのまま見過ごすことが出来ない主人公の気持ちを捉えさせる。 ・そのことが自分の心の葛藤の要因になった事に気づかせる。 ☆声をかけたいと思いながらなかなか声をかけられないでいる主人公の気持ちに共感させる。 ＜受容力＞ ＜表現力＞ ◎主人公の心の迷いや葛藤について共感させる。＜思考力・判断力＞ □「ぼく」が葛藤する心情につ

展開 37分	（グループでの意見交流） 自ら考える場 互いに認め合う場 ３グループで話し合ったことを発表する。 ・互いの考えを出し合い、良さや違いを認め合う。 （1）男の人の後ろ姿を見送りながら、ほっとしているぼくは、どんな気持ちだったのだろう。 ４障害のある人の話（VTR）を見て今までの自分を振り返り、これからどうしていくかについて考える。	れたらどうしよう。 ・はずかしい。 ・互いの意見を交流することによって、自分の考えに自信を持って集団解決に臨めるようにする。 ・相手の考えを認め、複数での話し合いによって考えを深める。 ・手を貸してあげて良かったなあ。 ・男の人も喜んでくれたに違いない。 ・自分の役割を果たせて良かったうれしい。 ・いいことをしたので、気持ちいいなあ。 ・話を聞いて、困っている人の立場になって助けたい。 ・困っている人を見かけたら声をかけたい。	いて考えようとすることができたか。 ☆男の人を間近に見ていたら、どうしても手助けをしたいという気持ちになったことに気付かせる ◎主人公が男の人に対する思いや葛藤について自分の考えを持ち友達と意見交流をし、様々な考えに触れ受け入れる事ができるようにする。 ＜受容力＞ □自分の考えを持って進んで友達との意見交流をしようとすることができたか。 ☆「ぼく」が親切な行為をしたあとの満足感を感じ取らせる。 ◎主人公の行動や心の動きについて自分の考えを発表し、真の思いやり、親切について考えるようにする。 ＜表現力・行動力＞ ☆目の不自由な人が困ったことや嬉しかったことの話（VTR）を聞くことで実践しようとする意欲を持たせるようにする。 ☆相手に親切にする気持ちを伝えようとする意欲を高めたい。
終末 ５分	学習を振り返る場 ５自分たちでも出来ることを考え、意欲付けをし、学習の振り返りをする。 （1）今までの自分の行動をを振り返り、今日の学習で強く思ったり、新しく思ったりしたことはどんなことですか。	・困っている人がいたら助けたい。 ・不安だけど、困っている人を見たら、まずは声をかけてみたい 。	☆学習を振り返って、自分ができそうな事を考えさせる。 □自分ができそうな事を考えることができたか。

（4）　評価

・相手の事を思いやり親切にする心を持って接しようとする心情が育ったか。

心の信号機

（板書計画）

ぼく

目の不自由な男の人

立ち止まっている　○（黄色）
・何だろうあの子。
・何をしているのかな。
・どこか悪いのかな。

歩き出した　○（青）

はっとした　○（赤）
・買い物をしにいっても良いのかな。
・車が来てはねられたらどうしよう。

たまらない気持ち　○（青）
・助けよう（手伝ってあげよう）

いざとなると勇気が出ず、とまどう　○（赤）
・助けてあげよう（迷い）
・かわいそう。
・どう声をかけようか。
・勇気が出ない。
・違うところに行くんだったらどうしよう。
・恥ずかしい。
・あの人を助ける人がいるといいけど。

決心する　○（青）

ほっとした　→（思いやり・親切）○（青）
・助けて良かった。
・おじさん喜んでいただろうなあ。
・やってよかった。